

小 児 科



1. 小児科の紹介

愛媛大学小児科は、医学系研究科、附属病院、周産母子センター、小児総合医療センターと、地域小児・周産期学講座、地域小児保健医療学講座、感染制御学講座の寄附講座から構成されています。また附属病院小児科病棟は、一般小児科病棟とそれに隣接する新生児病棟（NICU、GCU）および小児総合医療センター（PHCU）の3つから成っています。小児血液・腫瘍、遺伝、循環器、内分泌・代謝、神経・筋、腎臓、アレルギー、新生

児等小児の全分野における高度急性期疾患から慢性疾患に至るまで、多岐にわたる疾患について包括的医療を行っています。また、小児同種骨髄移植やCAR-T療法、経カテーテル肺動脈弁置換術をはじめとするカテーテル治療、脳神経外科と連携した外科治療を含む難治性てんかん治療、1型糖尿病に対する最新のインスリンポンプ療法などの高度医療も当施設で対応しています。

2. プログラムの目的と特徴

小児科医には正常小児の成長・発達に関する知識が不可欠で、新生児期から思春期まで幅広い知識が必要です。さらに小児科医として必須の疾患をもれなく経験し、家族への説明と同意を得る技能を身につける必要があります。研修プログラムでは、「小児医療の水準向上・進歩発展を図り、小児の健康増進および福祉の充実に寄与する優れた小児科専門医を育成する」ことを目的とし、一定の専門領域に偏ることなく幅広く研修します。愛媛大

学小児科は高度な専門医療に対応するため各領域に経験豊富な専門医を有し、さらに2次および3次の救急患者を受け入れる体制も整っているため、小児科医として欠くことのできない救急疾患の対応も研修できる施設です。また専門研修連携施設では急性疾患や慢性疾患の診療を経験でき、地域の特性と病院の役割に応じてすべての領域にわたり経験できます。

3. 経験目標

小児科専門研修は愛媛大学病院小児科研修プログラムに沿って研修が行われ、愛媛大学はその基幹施設になっています。基本的には、1) 2つ以上の施設で研修を行うこと、2) 地域医療にも貢献すること、が前提となっています。

愛媛大学病院または専門研修連携施設（愛媛県立中央病院、松山赤十字病院）では感染症・内分泌代謝・血液腫瘍・アレルギー・腎泌尿器・循環器・神経各疾患患者を担当し、周産期センター・新生児部門で新生児・先

天異常疾患の診療を経験できます。また他の専門研修連携施設（市立宇和島、県立今治、県立新居浜）では主として地域小児医療の研修を、また北九州市立八幡病院では主として小児救急の研修を行い、最終的に3年間ですべての小児領域を経験できるようにします。なお、2021年度より新たに四国こどもとおとなの医療センター（香川県善通寺市）でも研修を行えるようになりました。

4. 指導医と指導体制

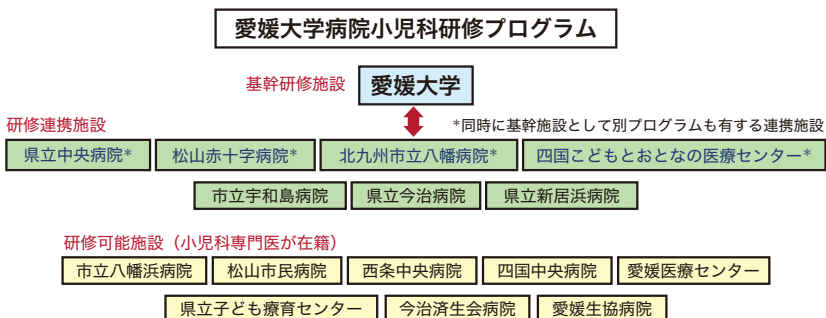
教 授	江口真理子	血液腫瘍
准教授	石前 峰斉	血液腫瘍
助 教	森谷 京子	血液腫瘍
助 教	加賀城真理	血液腫瘍
助 教	岩本麻友美	血液腫瘍
助 教	宮本真知子	血液腫瘍
教 授	田内 久道	感染症
教 授	檜垣 高史	循環器
講 師	千阪 俊行	循環器
助 教	前澤身江子	循環器
助 教	宮田 豊寿	循環器

准教授	太田 雅明	新生児
助 教	渡部 竜助	新生児
助 教	徳永はるか	新生児
助 教	今井 琴美	新生児
助 教	濱口ひかる	新生児
講 師	元木 崇裕	神経筋
助 教	城賀本敏宏	神経筋
准教授	濱田 淳平	内分泌代謝
助 教	勢井 友香	内分泌代謝
助 教	西村 幸士	アレルギー
講 師	渡邊祥二郎	腎臓・膠原病

5. 研修に関する行事

	月	火	水	木	金	土・日
8:00-9:00	朝カンファレンス（患者申し送り）					
AM （週1回外来）	病棟・外来	病棟・外来	症例検討・回診	病棟・外来	病棟・外来	当直など
PM	病棟・ 周産期カンファレンス	病棟	病棟・カンファレンス	病棟	病棟	合同勉強会 （2回/年）

6. 新専門研修プログラム



左図にある基幹病院、研修連携施設、研修可能病院から各専攻医と相談した上で、研修施設、期間を決定します。

7. 専門研修修了後について

研修終了後は、小児科の各分野の専門医（サブスペシャリティー 専門医）を目指して学内外の施設で研修を継続します。または大学院進学で学位取得を目指します。国内・海外留学も可能です。

8. 専門研修の問い合わせ先

担当：江口真理子（教授）、濱田淳平（医局長）

千阪俊行（専門研修プログラム担当）E-mail：chisaka.toshiyuki.lh@ehime-u.ac.jp

TEL：089-960-5320（小児科医局）

